

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT2602		
科目名	危機管理基礎演習Ⅱ		
担当教員	勝股 秀通		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 2		
講義室	1313	単位区分	必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E 〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-H 〔論理的思考力・批判的思考力〕 理路整然として思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-F 〔探求力・課題解決力〕 問いを設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4-I 〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP6-K 〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■CRコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモングループリック（CR）との関連 E1 学識と専門技能（30%） F1 探求と論拠（10%） H1 論理的思考（10%） H2 批判的思考（10%） I1 理解・分析と読解（10%） I3 情報分析（10%） K1 ライティングコミュニケーション（10%） K2 オーラル・コミュニケーション（10%）		
教員の実務経験	担当教員は長年、全国紙の新聞記者として外交・防衛など安全保障問題を専門としてきたほか、事件や事故、地震や噴火など自然災害の現場取材も豊富で、講義ではそうした過去に取材などした様々な危機の場面や状況について詳しく分析すると同時に、いま起きている、もしくは、起きる可能性のある危機について、危機への備えを含めてリアルに説明します。特に2021年度は20年から続く新型コロナウイルスの感染拡大（コロナ禍）という危機（感染症災害）の中で、報道から何が読み取れるのか等々について、実際に担当教員が取材した過去の事象と比べながら、学生の理解を深めていきます。		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 2 進行期～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	危機管理に属する多様な研究領域の中から、学生個人がそれぞれ1つの研究テーマを構築するために必要な、危機管理に関する基礎的な演習を行います。危機管理学の専門基幹科目における法学科目や、専門展開科目における災害マネジメント領域、パブリックセキュリティ領域、グローバルセキュリティ領域、情報セキュリティ領域の4領域の危機管理系科目を担当す		

	る教員が担当し、それぞれの研究領域における研究の手法について指導します。ここでの学びが、3年次以降のゼミナールや危機管理特殊研究へのより専門的な研究活動へとつながります。本科目では、専門的研究のテーマに基づいて、研究計画を構築し、プレゼンテーションを実施します。授業形態は演習により行います。なお、授業の一部を補完するため、あるいは代替するためにオンライン授業取り入れる場合があります。開講曜日・時限に授業動画配信及び課題等を提示します。 ■キーワード：情報収集、グループ討議、研究テーマの選択 ■授業形式は演習形式で行います。現下のコロナ禍という厳しい状況の中で、演習の基本である対面形式を補完するため、ライブ配信型のオンライン授業を取り入れます。				
授業の趣旨	■副題 いま日本でそして世界では何が起こっているのか。時代の動きに敏感になろう ■授業の目的 この授業ではたくさんの新聞記事を読むことになります。記事は教員が学部生として知っておく必要のあるテーマを毎回厳選し、事前に多くの記事（20枚程度）を配布します。なぜなら、危機への備えや対応を学ぶうえで必要なことは、常に社会のさまざまな動きや変化を知っていなければならないからです。そうした変化に目を凝らし、耳を傾け、そして敏感でいることに尽きます。この基礎演習Ⅱでは、主に2019年から21年にかけて起きているさまざまな危機を扱った新聞記事を教材として、自分が見聞したことのない多くの情報に接することを通して、探求心や関心テーマを発見し、自分から進んで調べることの面白さを認識し、理解することを目的とします。 ■授業のポイント 災害から社会一般、国際情勢に至るまでさまざまな危機に関する問題の背景と内容の理解、プレゼンテーションなどを通じて、①学識・専門技能、②論理的及び批判的な思考力、③表現力といった能力の開発を行う。そのためには、将来のキャリアを見据えた学びにおいて、積極的に自らチャレンジする姿勢を育むことが望まれます。ただし、副題で示したように「時代の動きに敏感になる」ためには、授業で与えられる新聞記事だけを読むのではなく、新聞を読むくせをつけ、演習科目としての特性を生かしながら、新たなテーマについて議論を深めていくことにします。				
総合到達目標	■社会で起きている様々な問題を認知し、理解を深めることによって、問題の背景や課題、議論すべき事柄について、自分の言葉で伝えることができる。 ・新聞情報を出発点として、問題への関心や興味を高め、疑問点を深掘りすることができる。 ・社会で起きている様々な事象を、身近な問題として引き付け、解決策などを議論することができる。 ■同じテーマであっても自分とは考えの違う人は多い。グループ討議などを通じて、他者の意見をくみ取り、幅広い視点から理解し、表現することができる。 ・物事を単眼で見るのではなく、常に複眼で見ることを心がけ、実践することができる。				
成績評価方法	■予習による発表とミニレポート（提出シート）ほぼ毎回（70%） 適用ルーブリック E 1・F 1・H 1・H 2 （評価の観点）授業に取り組むための準備として、授業で扱う事例について理解を深めてきているか評価します。 （フィードバック方法）授業時間中に解説します。 ■少し長めのレポート2回（30%） 適用ルーブリック E 1・F 1・H 1・H 2・I 1・I 3・K 1 （評価の観点）授業内容を理解し、自分で説明できるようになっているか評価します。 （フィードバック方法）授業時間中に解説します。 ■ライブ配信型によるオンライン授業が中心になった場合には、適宜、成績評価の方法についても履修生に説明します。				
履修条件	演習科目なので欠席しないこと。				
履修上の注意点	積極的に発言し、議論に参加すること。				
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 教員と受講生全員が自己紹介し、履修生は関心のある危機管理に関するテーマについて発表する。併せて全体の授業内容及び授業の進め方について説明します。（E 1） ③予習（120分） 履修生に事前に伝えておいた内容について、新聞記事等を参考にしながら知識を深めておく。自ら関心のある危機管理に関するテーマについて、発表できるようにまとめておく。 ④復習（120分） 他の履修生が発表した内容を含め、研究テーマについてまとめておく。 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 教員と受講生全員が自己紹介し、履修生は関心のある危機管理に関するテーマについて発表する。併せて全体の授業内容及び授業の進め方について説明します。（E 1） ③予習（120分） 履修生に事前に伝えておいた内容について、新聞記事等を参考にしながら知識を深めておく。自ら関心のある危機管理に関するテーマについて、発表できるようにまとめておく。 ④復習（120分） 他の履修生が発表した内容を含め、研究テーマについてまとめておく。
回	内容				
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 教員と受講生全員が自己紹介し、履修生は関心のある危機管理に関するテーマについて発表する。併せて全体の授業内容及び授業の進め方について説明します。（E 1） ③予習（120分） 履修生に事前に伝えておいた内容について、新聞記事等を参考にしながら知識を深めておく。自ら関心のある危機管理に関するテーマについて、発表できるようにまとめておく。 ④復習（120分） 他の履修生が発表した内容を含め、研究テーマについてまとめておく。				

2	①授業テーマ 新型コロナの教訓① ②授業概要 2020年から続く新型コロナウイルスの感染拡大が日本をそして世界を揺るがしている。私たちの生活や社会活動は変化を迫られ、国の危機管理や医療体制では様々な問題点が露呈している。教訓1回目は、私たちに身近な生活、社会環境の変化に焦点をあて、浮かび上がった課題と対応策について考えることを目的とする。発表者（5～6人）は事前に配布された新聞記事から、自分が特に関心を持ったテーマについて説明する。担当教員が実務経験に基づき、発表者の発表内容について追加コメントし、学生の理解を促進させる。（E1, H1, K2） ③予習（120分） 前回の授業終了時に配布された朝鮮半島情勢に関する最近の新聞記事（約20枚）をよく読み、①初めて知った内容②なぜだろう（疑問点）③関心のある項目を「提出シート」にまとめておく。（E1, F1, K1） ④復習（120分） 講義内容を確認し、発表者の意見を参考にしながら、自分の意見をまとめておく。
3	①授業テーマ 新型コロナの教訓② ②授業概要 新型コロナの教訓の2回目は、政府の危機管理体制に焦点を当てる。コロナウイルスの日本上陸から1回目の緊急事態宣言までの間に浮上した大きな問題点は政府の司令塔機能の欠如であった。縦割り行政の弊害が顕在化し、感染拡大に対応できなかった反省はどのように生かされているのか、もしくは生かされていないのか。履修生は関係する記事を読み込み、理解を深める。発表者（5～6人）は政府の司令塔機能について、浮かび上がった問題点、その後の改善策、足りない視点などを系統だてて説明できるようにしておく。（E1, H1, K2） 担当教員の実務経験を踏まえて、危機における政府の役割、政治に対する国民の信頼の必要性などについて、現状や問題点を解説します。 ③予習（120分） 事前に配布された新聞記事（約20枚）をよく読んで、「提出シート」にまとめておく。（E1, F1, K1） ④復習（120分） 講義内容を確認し、コロナ対応における政府の対応をまとめておく。
4	①授業テーマ コロナ禍で変化する日本の安全保障環境 ②授業概要 日本そして世界がコロナの感染拡大という危機に直面しているスキを突いて、中国は沖縄・尖閣諸島への挑発を加速し始めている。そうした中国の軍事的な台頭に直面する日本の課題について、最近の記事を読んで、日本と中国の関係について理解する。発表者（5～6人）は中国の行動が日本に与える影響について説明できるようにしておく。（E1, H1, K2） 担当教員の実務経験を踏まえて、中国が及ぼす安全保障上の問題点について、現状や問題点を解説します。 ③予習（120分） 事前に配布された新聞記事（約20枚）をよく読んで、「提出シート」にまとめておく。（E1, F1, K1） ④復習（120分） 講義内容を確認し、中国と向き合うために必要な日本政府の対応についてまとめておく。
5	①授業テーマ 国家関係と歴史認識 ②授業概要 日本の平和と安全を考える上で、中国や朝鮮半島における過去の歴史問題が常に影を落としている。歴史認識とは何か。日本とトルコとの関係などを通じて、対外関係に及ぼす歴史問題について、担当教員の実務経験を踏まえて、問題点と課題を説明します。発表者（5～6人）はまとめてきた「提出シート」を参考にしながら、歴史認識について説明する。（E1, F1, H1, H2, I1, I3, K2） ③予習（120分） 事前に配布した中国や韓国、北朝鮮に関する新聞記事の中から、歴史認識に端を発した問題（約20枚）をよく読んで、知識を深めるとともに、「提出シート」にまとめる。（E1, F1, K1） ④復習（120分） 講義内容をよく確認しながら、国家関係における歴史認識の重要性を理解する。
6	①授業テーマ 沖縄問題と日米地位協定 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、沖縄にある米軍普天間飛行場の移設問題の経緯、及び日米地位協定について説明します。発表者（5～6人）は最近の移設問題と地位協定

	をめぐる問題の新聞記事をよく読んで、沖縄と本土との意識の違いについて説明する。 (E 1, F 1, K 2) ③予習 (120分) 事前に配布された米軍基地移設など沖縄に関する新聞記事をよく読み、疑問点などを「提出シート」にまとめておく。(E 1, F 1, K 1) ④復習 (120分) 講義内容を確認し、発表者の意見を参考にしながら、沖縄の米軍基地の移設問題について、自分の意見をまとめておく。
7	①授業テーマ コロナ禍で変化する働き方 ②授業概要 働き方改革を巡る最近の動向に加え、コロナ禍によってリモート、テレワークなど働き方そのものが大きく変化している。履修生はそれらに関連した記事を読んで、この数年間の労働環境の変化とコロナ禍における働き方の変化について説明するとともに、発表者(5～6人)は具体的な業種を例示しながら、現状と課題について説明できるようにしておく。(E 1, F 1, H 1, H 2, I 1, I 3, K 2) ③予習 (120分) 事前に配布した働き方をめぐる最近の新聞記事をよく読んで、疑問点などを「提出シート」にまとめておく。(E 1, F 1, K 1) ④復習 (120分) 講義内容をよく確認するとともに、発表者の意見を参考にしながら、働き方をめぐる問題点について自分の意見をまとめておく。
8	①授業テーマ 前半のまとめ ②授業概要 1回目から7回目までの授業で学んだ内容について、少し長めのレポート(40分)を実施します。新型コロナの感染拡大で浮かび上がった課題、その課題をめぐる対策などについて自分の考えをまとめ、論述できるようにしておく。(E 1, F 1, H 1, H 2, I 1, I 3, K 1) ③予習 (120分) 1回目から7回目までに配布した新聞記事を読み直して、レポート作成に備えておく。 ④復習 (120分) レポートの解説を踏まえて、新型コロナの教訓について、課題と問題点についてきちんと説明できるようにしておく。
9	①授業テーマ 少子化がもたらす危機 ②講義内容 少子化が日本にどのような影響を及ぼしているのか。政治・経済・社会・文化・・・各分野の現状と課題について、発表者(5～6人)は関連する新聞記事から議論のテーマを絞り込み、少子化の問題点を理解するとともに、少子化という危機と向き合うために必要な準備について提示する。(E 1, F 1, H 1, H 2, I 1, I 3, K 2) 担当教員の実務経験を踏まえて、身近な少子化対策の現状と課題について説明します。 ③予習 (120分) 配布された新聞記事をよく読むと同時に、少子化の影響について自らの関心あるテーマを選び、他の媒体から情報を収集するなどして理解を深めておく。(E 1, F 1, K 1) ④復習 (120分) 発表者の意見を参考にしながら、少子化に潜む危機の幅広さについて自分の言葉で説明できるようにしておく。
10	①授業テーマ 災害①(自助と共助の視点から) ②授業概要 1986年に発生した伊豆大島・三原山噴火災害について説明し、緊急全島避難を可能にした地元消防団への加入義務化について議論します。日本では「徴兵制」を連想させるとしてこの種の議論は提起することも憚られてきたが、災害時のボランティア参加率が高くなってきた現状においては、少子化の時代だからこそ、災害対応を念頭に国民招集制度を検討する価値はあるのではないかと議論を深めていく。担当教員が実務経験に基づき、発表者の発表内容について追加コメントし、学生の理解を促進させる。(E 1, F 1, H 1, H 2, I 1, I 3, K 2) ③予習 (120分) 伊豆大島三原山噴火当時の新聞記事を読み、理解を深めると同時に、最近の消防団を巡るニュースを把握しておくこと。(E 1, F 1, K 1) ④復習 (120分) 授業での議論を通じて、国土や街を自分たちで守っていくためにはどうすればいいか、について自分の意見をまとめておく。

11	①授業テーマ 災害②（公助の視点から） ②授業概要 発生予測確率が高くなっている首都直下地震と南海トラフ地震について、国レベルと地元自治体レベル、企業レベルの取り組みについて説明し、担当教員の実務経験を踏まえて現状と課題について議論します。発表者（4人）は「首都直下」と「南海トラフ」のどちらかの災害を選び、「自助と共助」の現状を提起し、議論を深められるようにする。担当教員が実務経験に基づき、発表者の発表内容について追加コメントし、学生の理解を促進させる。（E1, F1, H1, H2, I1, I3, K2） ③予習（120分） 事前に配布された首都直下地震と南海トラフ地震に関連する新聞記事（約30枚）をよく読み、現状を把握するとともに、自らの関心に合わせて、他の情報媒体から多くの情報を収集しておくこと。（E1, F1, K1） ④復習（120分） 首都直下地震の被害想定と南海トラフの被害想定から、私たちは何を読み解かなければならないのか。履修生は自分の意見をまとめておくこと。
12	①授業テーマ 東京五輪 ②授業概要 新型コロナの影響で1年延期となった東京五輪。21年夏に開催された場合には、開催に至る取り組みや問題点を検証する。再度の延期、もしくは中止となった場合には、延期や中止となった背景について取り上げた新聞記事を読み解きながら、東京五輪について議論する。発表者（5～6人）はさまざまな問題の中から関心の高いテーマを選び、発表を通じて議論を深められるようにしておく。（E1, F1, H1, H2, I1, I3, K2） ③予習（120分） 東京五輪に関する新聞記事などをよく読んで、自分の関心テーマについて「提出ノート」にまとめておく。（E1, F1, K1） ④復習（120分） 授業での議論を振り返り、2021年の東京五輪について、自分の意見をまとめておく。
13	①授業テーマ 新たな課題① ②授業概要 2019年には個人情報保護の観点から、リクナビの企業への学生情報の提供が問題となった。2020年には個人情報改正される。情報保護をめぐる問題点を集めた新聞記事をよく読み、発表者（4人）は身近な個人情報の保護について具体的な事例や体験を通じて議論を深められるようにしておく。（E1, F1, H1, H2, I1, I3, K2） ③予習（120分） 個人情報保護に関する新聞記事などをよく読んで、自分の関心テーマについて「提出ノート」にまとめておく。（E1, F1, K1） ④復習（120分） 授業での議論を振り返り、個人情報保護が抱える問題点について、自分の意見をまとめておく。
14	①授業テーマ 新たな課題② ②授業概要 2019年には表現の不自由展における展示内容を巡って、「表現の自由とは」「公的な介入とは」といった議論が繰り返された。2020年には新たな問題が湧き出ていると予想される。配布された新聞記事をよく読み、発表者（ほぼ全員）は何が問題なのかを明らかにしながら自分の意見を発表する。（E1, F1, H1, H2, I1, I3, K2） ③予習（120分） 2020年を象徴する出来事に関する新聞記事をよく読み、新しい時代がもたらす変化について、変わってほしい部分と、変わらないでほしい部分について自分の意見をまとめておくこと。 ④復習（120分） 授業における他者の発表を取り入れながら、時代の変化に関わらず残さなければならぬものについて、その理由を含めて整理しておく。
15	①授業テーマ 総まとめ ②授業概要 後期の授業を振り返り、少し長めのレポート（40分）を実施します。様々な危機（リスク）が想定される時代の中で、これから生きる学生の豊かな感性が求められる論述とします。（E1, F1, H1, H2, I1, I3, K1） ③予習（120分） コロナ、少子化、災害、東京五輪などのテーマの中から関心の高いテーマを選んで、自分の意見を簡潔にまとめておく。 ④復習（120分）

	15回の授業を振り返りながら、自分の関心分野と研究テーマについて絞り込みができるように模索すること。
関連科目	「マスコミュニケーション論 (RMGT3575)」(2、3年次前期配当) 「ゼミナールⅠ～Ⅳ (RMGT4601～04)」(3、4年次配当) 「危機管理特殊研究1～4 (RMGT4611～14)」(3、4年次配当)
教科書	教材としては、主に事前に配布する新聞記事(15枚～25枚)を使用します。下記に示した参考書のうち、担当教員が執筆した「検証 危機の25年」については、学生が比較的不得手としている戦後の現代史について取り上げていますので、配布される新聞を理解するうえでも、副読本として読んでおくことを勧めます。
参考書・参考URL	勝股秀通『検証 危機の25年』(並木書房) 高良倉古編著『沖縄問題』(中央公論新社) 増田寛也編著『地方消滅』(中央公論新社) 日本再建イニシアティブ著『現代日本の地政学』(中央公論新社) 久保信保『我、かく闘えりー東日本大震災と日本の消防』(近代消防社) 秋月達郎『海の翼』エルトゥールル号の奇蹟(PHP文芸文庫)
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 開講時に告知します。それ以外の時間は、メール等で事前にアポイントメントを取ることで研究室内で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント20%、パブリックセキュリティ20%、グローバルセキュリティ20%、情報セキュリティ40% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学75%：法学25%

